

「お茶大インデックス」（雇用環境整備指標）を用いた教育研究機関の雇用環境評価 2015 年度 結果

「お茶大インデックス」を用いた教育研究機関の雇用環境評価を実施した。調査概要は以下の通り。

調査実施日：2016 年 1 月 5 日（火）～2 月 19 日（金）

調査方法：Excel で回答可能な「お茶大インデックス」をメールにて送付・回収

配布機関：科学技術振興調整費・女性研究者支援モデル育成事業（H18～H22）採択 55 機関、及び
女性研究者研究活動支援事業選定（H23～H26）43 機関の計 98 機関

回収数：42 機関（回収率 42.9%）

お茶大インデックス評価結果 42 機関の回答割合と全体的経年変化

42 機関のお茶大インデックス評価結果について、50 項目それぞれに 3 つの選択肢の回答割合を算出した。各項目の回答割合を用いて図 1 を作成した。

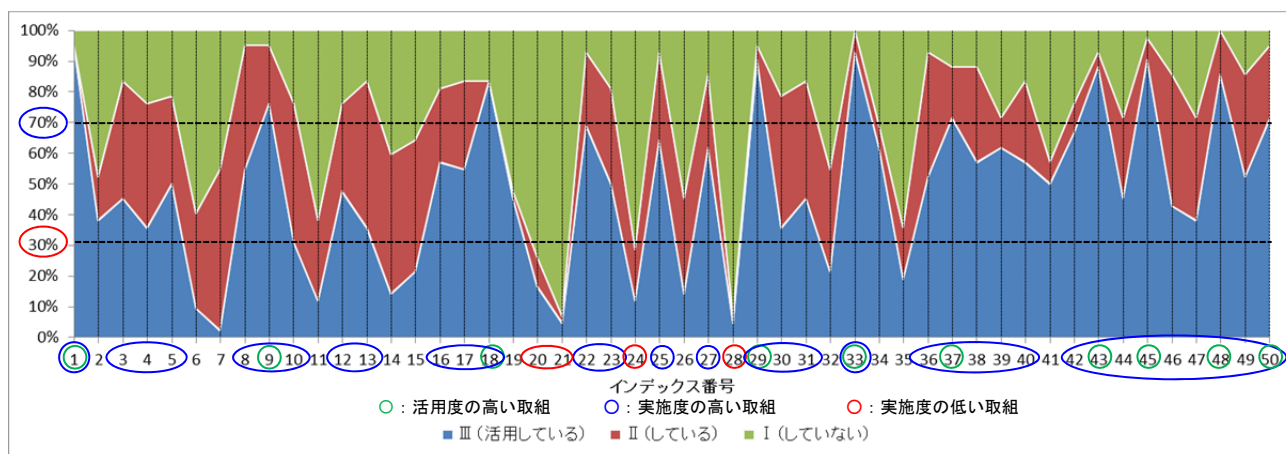


図 1. お茶大インデックス評価結果（全 42 機関、回答割合）

42 機関における活用度の高い取組（『Ⅲ.活用している』の回答が多い項目）、実施度の高い取組（Ⅲ.活用している、Ⅱ.している）、低い取組（Ⅰ.していない）は以下の通り。（カッコはインデックス番号を示す）

活用度の高い取組（『Ⅲ.活用している』の回答割合が 70%以上）

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------------|
| (1) 女性研究者を支援する組織の設置 | (37) 女性研究者を支援するための他キャンパス・他機関・地域との連携 |
| (9) 子育てを支援するための予算の配分 | (43) 全職員向け女性研究者を支援するための情報発信 |
| (18) 保育施設の設置 | (45) ハラスメントを防止するための取組 |
| (29) 子育て中の女性研究者を支援するための研究補助者の配置 | (48) 男女共同参画に対する意識啓発 |
| (33) ホームページによる情報発信 | (50) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた意識啓発 |

実施度の高い取組（『Ⅲ.活用している』に『Ⅱ.している』を加えた場合の回答割合が 70%以上） ※赤字は昨年度（2014 年度）には認められなかった項目を示す。

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------------|
| (1) 女性研究者を支援する組織の設置 | (18) 保育施設の設置 |
| (3) 公正で透明性の高い公募を行うためのシステムの導入 | (22) 育児期における柔軟な勤務体制の導入 |
| (4) 客観的に業績を評価するシステムの導入 | (23) 育児期における職務軽減制度の導入 |
| (5) 女性を積極的に採用するシステムの導入 | (25) 『次世代育成支援対策行動計画』の周知 |
| (8) 女性研究者における研究分野別・職階別の女性比率の把握 | (27) 子育てと研究のための相談窓口の設置 |
| (9) 子育てを支援するための予算の配分 | (29) 子育て中の女性研究者を支援するための研究補助者の配置 |
| (10) 業務を効率化するための取組 | (30) 女性研究者を支援するためのメンター制度の導入 |
| (12) 定時帰宅日の設定 | (31) 子育て中の女性研究者のキャリアアップ支援 |
| (13) 男性が育児休業制度を積極的に取得することを周知 | (33) ホームページによる情報発信 |
| (16) 女性休養室の設置 | (36) 女性研究者を支援するためのロールモデル情報の発信 |
| (17) 授乳室・多目的トイレの設置 | (37) 女性研究者を支援するための他キャンパス・他機関・地域との連携 |

- | | |
|--|------------------------------|
| (38) 女性研究者間のネットワーク構築 | (45) ハラスメントを防止するための取組 |
| (39) 女子中高校生向け体験授業（学内・学外）の開催 | (46) 男性向け子育て支援に関する意識啓発 |
| (40) 女子中高校生向けロールモデル情報の発信 | (47) 管理職向け両立支援に関する意識啓発 |
| (42) 女子中高校生向けイベント・シンポジウムの開催 | (48) 男女共同参画に対する意識啓発 |
| (43) 全職員向け女性研究者を支援するための情報発信（メール・新聞・掲示） | (49) ダイバーシティを理解するための意識啓発 |
| (44) 子育て支援に関する勉強会・交流会の開催 | (50) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた意識啓発 |

実施度の低い取組（『Ⅰ.していない』の回答割合が70%以上）

- | | |
|---------------------------|---------------------------------------|
| (20) 学童保育施設の設置（他機関との連携も可） | (24) 在宅勤務を可能にするユビキタス環境整備（ネット対応、TV会議等） |
| (21) 子育てを支援するための学内宿泊施設の整備 | (28) 学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制の導入 |

「Ⅲ.活用している」（『Ⅲ.活用している』の回答割合が70%以上）の回答が多くみられたのは、インデックス番号（1）、（9）、（18）、（29）、（33）、（37）、（43）、（45）、（48）、（50）であり、昨年度と同様に「支援組織の設置」、「子育て支援のための予算配分」、「研究補助者の配置」、「他キャンパス・他機関・地域との連携」、「ホームページなどを用いた情報発信」、「男女共同参画やハラスメントにかかわる意識啓発」は実施度が高く、かつ、活用されていることがわかる。

実施度の高い取組（『Ⅲ.活用している』に『Ⅱ.している』を加えた場合の回答割合が70%以上）は、昨年度（2014）も挙げられた31項目に加え、赤字で示す3項目が増加した。特にインデックス番号（1）、（8）、（9）、（22）、（25）、（29）、（33）、（36）、（43）、（45）、（48）、（50）では『Ⅲ.活用している』に『Ⅱ.している』を加えた場合の回答割合が90%以上を示しており、昨年度6項目であったのに対して2015年度は2倍の12項目となり、多くの機関で各取組の実施率・普及率が向上していることがわかる。

一方、実施度の低い取組項目は昨年度と比較して減少したものの、やはり「学童保育」、「宿泊施設の設置」、「在宅勤務を可能にする環境整備」、「奨学金制度の導入」の実施度は低く、経済的支援や設置場所の確保、多額の資金が必要な取組は未だ実施困難であることがわかる。

上記の結果から、女性研究者支援事業に採択された教育研究機関では、①支援組織や保育施設を設置し、②研究補助者を配置するとともに、③ホームページを用いて積極的に機関内外に発信し、④ハラスメント防止や男女共同参画意識を高める取組を実施することにより、雇用環境の整備や女性研究者の支援を実施していると言える。特に組織整備や勤務体制、子育てや研究教育の支援と比較して「意識啓発」に関わる取組は実施度が高く、他の取組に比べ導入・実施が容易であると推察できる。一方で女性研究者支援事業が開始されて10年経過したにも関わらず、管理職に女性を登用するシステムや規則・評価制度の導入・設定、経済的支援、設置場所の確保や多くの資金が必要な取組は未だ実施が困難である状況も明るみとなり、これらの推進方法を改めて検討する必要があると言える。

お茶大インデックス 各機関の評価の経年変化

お茶大インデックス評価の経年変化を見るために、42機関のうち5年間（2011～2015）回答いただいた9機関についてのみ、4年間の総合得点平均値の推移および2014年度と2015年度の評価得点の差を算出し、得点の増減を示す図を作成した。

2011年度から2015年度の総合得点平均値の推移を図2-1に示す。5年間回答いただいた9機関の2015年度における総合得点平均値は60.22点と年々上昇していることがわかる。この総合得点平均値は、42機関全体の総合得点平均値60.1点と比較して高い値を示していることから、自己点検の結果を自機関の支援活動に反映し、活発な活動を実施していると推察できる。

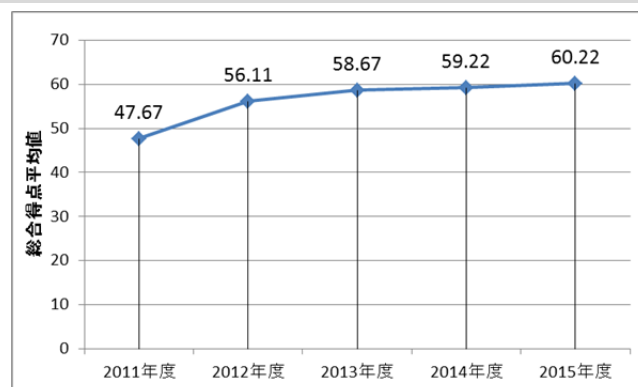


図2-1. 9機関におけるお茶大インデックス総合得点平均値の推移

次に、2014 年度と 2015 年度の評価得点の増減を図 2-2 に示す。「次世代育成」を除いたすべての項目において得点が増加していることがわかる。総合得点では 9 機関中 5 機関が得点増を示し、組織、研究教育支援、情報支援ではそれぞれ 2 機関が得点増を示したことから、着実に支援活動が維持・推進されていると言える。

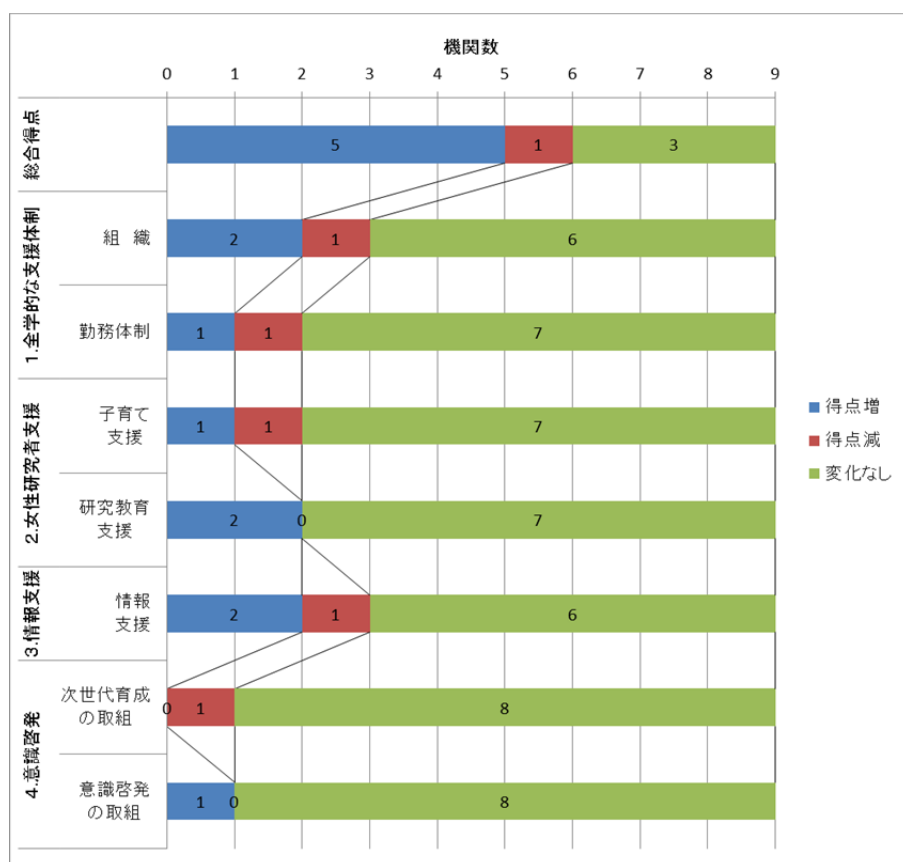


図 2-2. 9 機関におけるお茶大インデックス評価得点の増減（2014 年度→2015 年度）

さらに変化の詳細を確認するために、50 項目のインデックス評価得点それぞれにおいて 2014 年度評価と 2015 年度評価の得点差を算出し、得点の増減を示す図 3 を作成した。

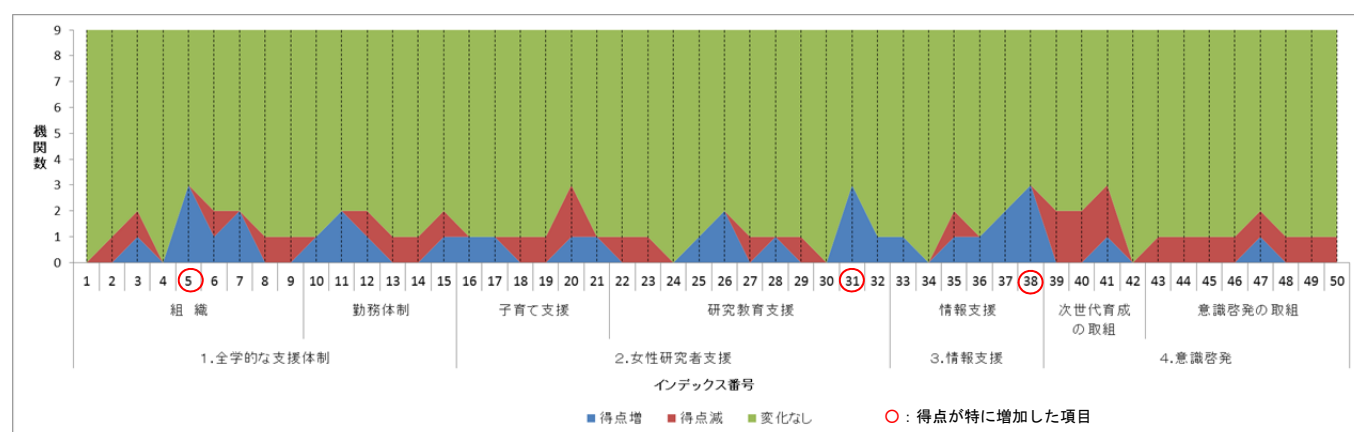


図 3. 9 機関におけるお茶大インデックス 50 項目の評価得点の増減（2014 年度→2015 年度）

得点の増加が多い項目は、インデックス番号（5）女性を積極的に採用するシステムの導入、（31）子育て中の女性研究者のキャリアアップ支援、（38）女性研究者間のネットワークの構築であった。女性研究者数を増加させる取組や女性研究者のキャリアアップ・ネットワークの拡大を目的とした取組が積極的に実施されている様子が見て取れる。

お茶大インデックス評価結果 評価得点上位 10 機関・下位 10 機関の特徴

42 機関のうち、インデックスの評価得点上位 10 機関（平均 75.8 点/100 点中）の回答割合を用いて図 4 を作成し、評価得点下位 10 機関（平均 40.6 点/100 点中）の回答割合を用いて図 5 を作成した。

図 4 から、得点上位 10 機関においてもインデックス番号 (20) 学童保育施設の設置、(21) 子育てを支援するための学内宿泊施設の整備、(28) 学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制度の導入、の 3 項目は「Ⅰ.していない」の回答が多い。この結果は 2011 年度から変化しておらず、育児に対する奨学金制度や施設・設備の整備は支援活動が充実している機関においても実施困難であることがわかる。

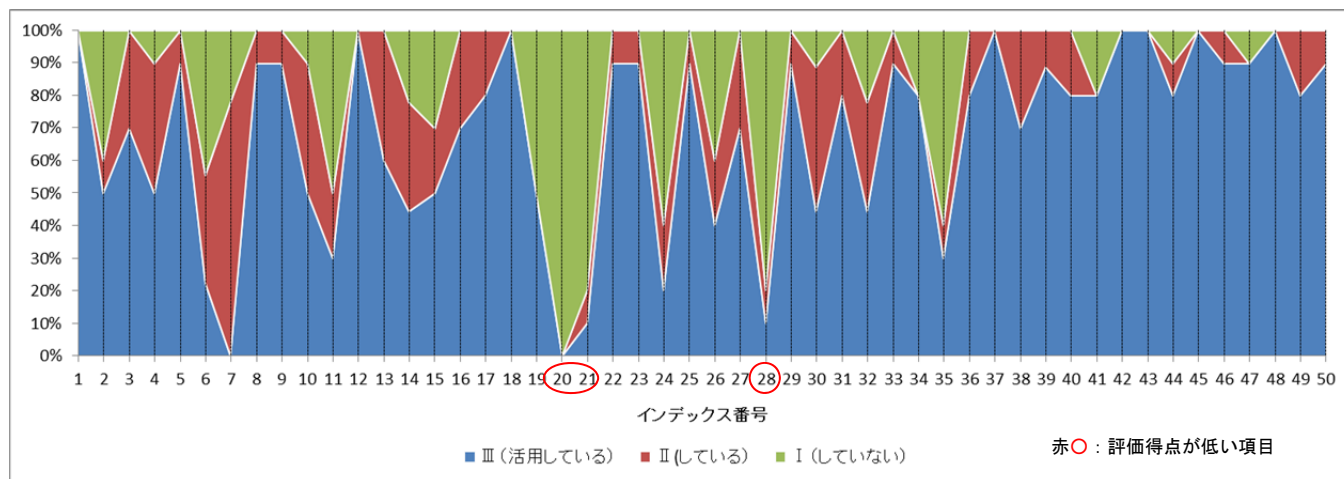


図 4. お茶大インデックス評価結果 (得点上位 10 機関)

一方、図 5 に示す得点下位 10 機関は、「Ⅰ.していない」の回答が多いものの、インデックス番号 (1)、(8)、(9)、(16)、(17)、(18)、(22)、(25)、(27)、(29)、(31)、(33)、(36)、(38)、(40)、(43)、(45)、(46)、(48)、(49)、(50) に見られる「女性研究者支援」と「意識啓発」の多くの項目において、「Ⅲ.活用している」もしくは「Ⅱ.している」の回答割合が 70%以上を示した。中でもインデックス番号 (9) 子育てを支援するための予算の配分、(33) ホームページによる情報発信、(48) 男女共同参画に対する意識啓発については、「Ⅲ.活用している」もしくは「Ⅱ.している」の回答割合が 100%であることから、支援活動を十分に実施できない状況においても、これらの取組は導入・実施がしやすいと考えられる。

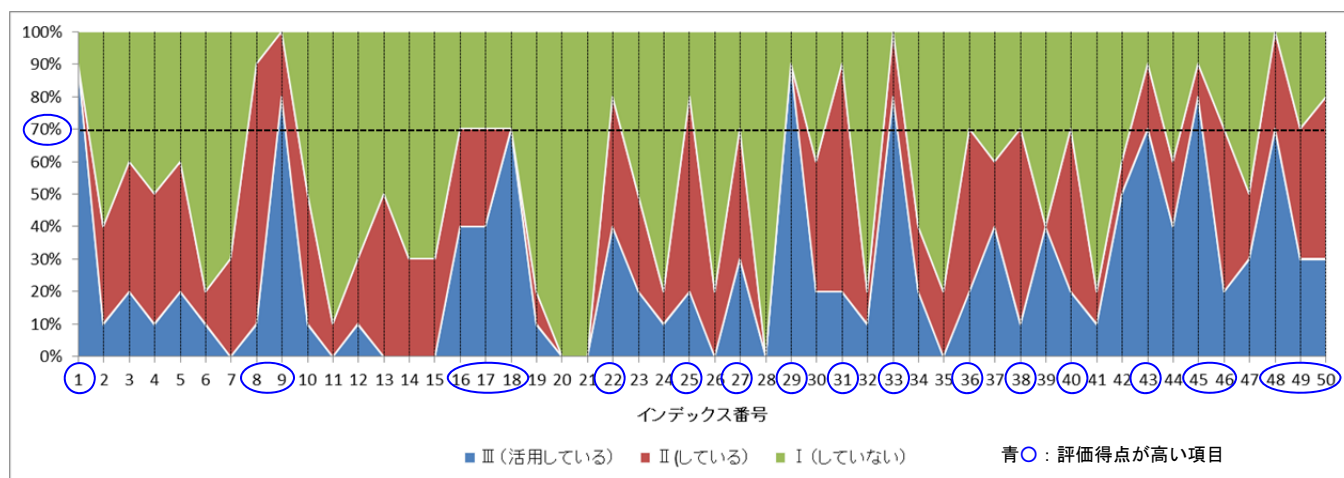


図 5. お茶大インデックス評価結果 (得点下位 10 機関)

お茶大インデックス評価結果 42 機関における支援バランスの特徴

お茶大インデックスは、教育研究機関における雇用環境の整備状況を「組織」、「勤務体制」、「子育て支援」、「研究教育支援」、「情報支援」、「次世代育成の取組」、「意識啓発の取組」の 7 項目に大分類し、それぞれの細目を作成して 50 項目で構成されている。

ここでは、7 項目の活用バランス、すなわち支援のバランスがどのようなものであるかを明らかにするために、大分類された 7 項目それぞれに得点割合（100%は満点）の平均値を算出した。結果を図 6 に示す。7 項目のうち「意識啓発の取組」の得点割合が最も高く、「情報支援」、「次世代育成の取組」と続いている。しかし、「次世代育成の取組」は昨年度と同様にバラツキが大きく、実施できている機関とできていない機関に差がみられた。そこで、42 機関それぞれに算出した 7 項目の支援バランス（得点割合）を用いてクラスター分析（類似性の高いものをグルーピングする方法）による解析を行った。

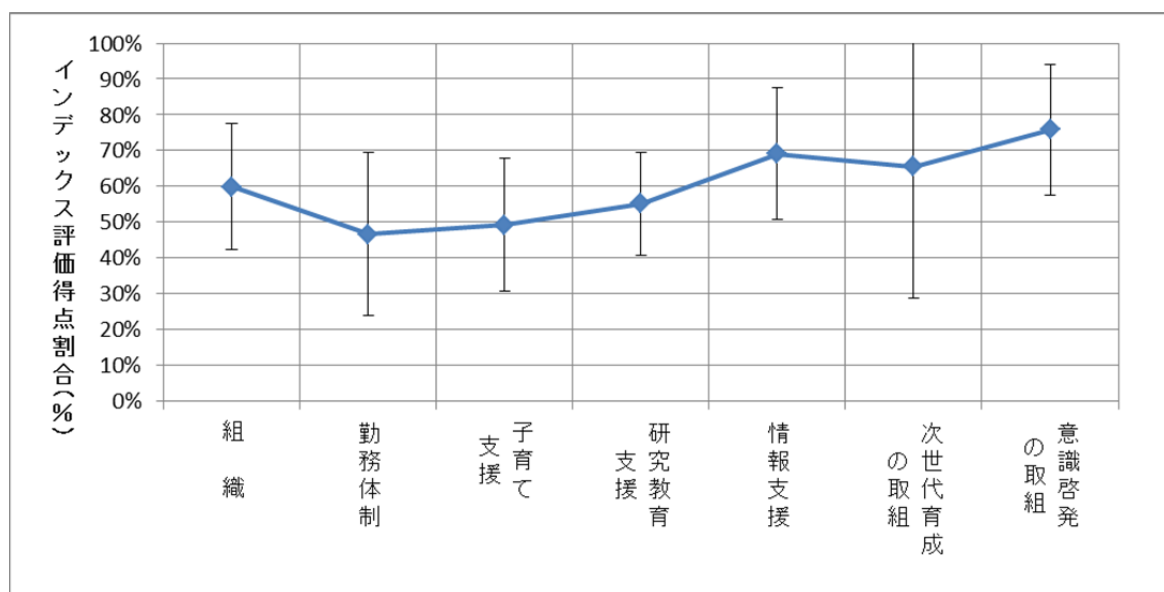


図 6. お茶大インデックス 支援バランス（42 機関における評価得点割合の平均値）

その結果、図 7 に示す通り、支援バランスの特徴により 42 機関を 5 グループに分類することができた。

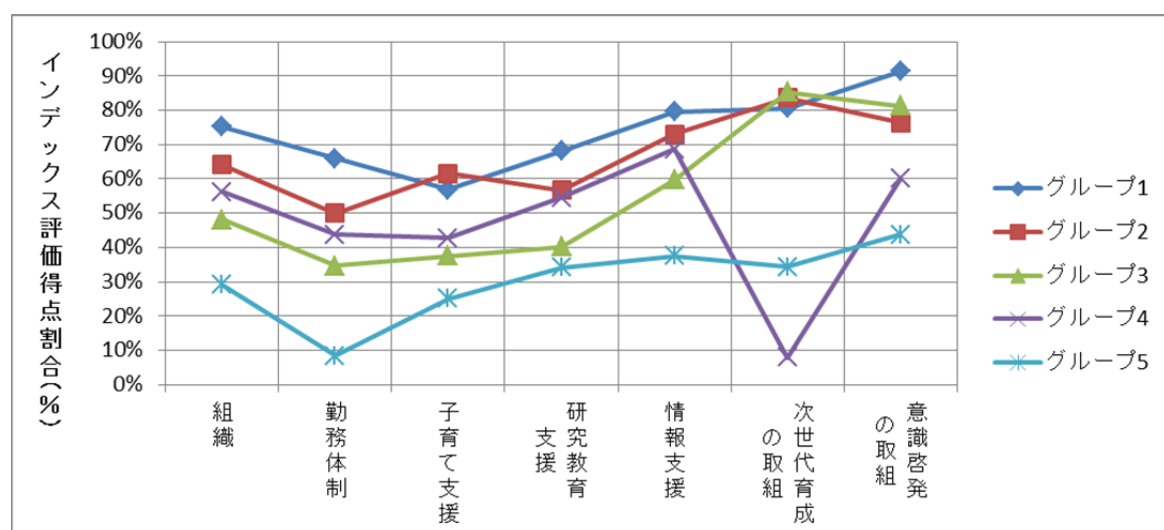


図 7. お茶大インデックス評価 42 機関における支援バランスの特徴

各グループを構成する機関の特徴は次に示す通りである。

【グループ 1】 全体的に支援が行き届いている機関（子育て支援以外の支援充実）（11 機関）

「子育て支援」以外の項目すべてにおいて得点割合が特に高い特徴を有するグループである。中でも「次世代育成」と「意識啓発」の取組については半数以上の機関において実施率 100%と非常に高い。総合得点が 75.2 点と非常に高く、2013 年度以前に女性研究者支援事業に採択された機関で構成されている。上位 10 機関を含んでおり、11 機関中 10 機関が国公立の大学である。

【グループ 2】 全体的に支援が行き届いており、子育て支援が最も充実している機関（13 機関）

5 グループの中で最も「子育て支援」の得点が特に高い特徴を有するグループである。総合得点は平均点よりやや高く（65.1 点）2014 年度以前に採択された国立大学・独立行政法人、大規模私立大学で構成されている。なお、お茶の水女子大学はこのグループに属している。

【グループ 3】「次世代育成」、「意識啓発」に力を入れている機関（6 機関）

7 項目の支援バランスの中でも「次世代育成」、「意識啓発」の得点が特に高い特徴を有するグループである。総合得点は平均点よりもやや低い 53.2 点であった。主として工学系大学や地方大学で構成されている。

【グループ 4】 「次世代育成」以外に力を入れている機関（8 機関）

支援バランス 7 項目のうち、「次世代育成」の得点が 5 グループの中で最も低い特徴を有するグループである。総合得点は平均点よりも低い 51.0 点であった。地方の国公立大学が 2/3 を占め、その他は独立行政法人、私立大学で構成されている。

【グループ 5】 支援活動が停滞している機関（4 機関）

他のグループの中でも総合得点は 31.0 点と最も低く、2006 年度～2010 年度に採択された機関で構成されている。「勤務体制」の取組が特に低いものの、「研究教育支援」、「情報支援」、「次世代育成の取組」、「意識啓発」は実施されているグループである。採択されてから長期間経過しているものの、総合得点が低いことから支援活動が停滞している機関と言える。

42 機関におけるお茶大インデックス評価結果 まとめ

女性研究者支援事業が開始されて 10 年が経過し、お茶大インデックスを用いた全国の教育研究機関の雇用環境評価も 6 回目となった。継続的な経年変化の分析では、支援活動が継続的に実施され、かつ、総合得点も上昇傾向にあることが明らかになった。さらに、7 項目の支援バランスをもとに、42 機関を 5 グループに分類し、事業実施のステージ（期間）や機関の特徴（支援活動の期間、国立と私立、地方大学、独立行政法人等）を抽出することができた。なお、支援活動が停滞している機関も確認されたことから、雇用環境整備および女性研究者支援方法の改善をより一層検討する必要があると言える。本調査を今後も継続的に実施し、統計データと分析結果を発信して行く予定である。

お茶の水女子大学における お茶大インデックス評価結果

お茶の水女子大学は、女性研究者支援モデル育成事業（2006 年度～2008 年度）を経て、2009 年度より本学独自の事業として雇用環境の整備と研究者支援を継続・発展させてきた。また、2014 年度には、本学と芝浦工業大学、物質・材料研究機構の 3 機関が女性研究者研究活動支援事業（連携型）に共同申請し、採択されている。本学における 2011 年度の総合評価得点は 62 点、2012 年度は 68 点、2013 年度は 70 点、2014 年度は 72 点であり、2015 年度は前年度からの得点増減は見られず、前年度と同様の評価・得点（72 点）であった。

【付録】 お茶大インデックス評価結果 総合得点一覧

お茶大インデックスの評価結果（表 1）を総合得点の降順に示す。総合得点の平均点は 60.1 点（昨年度より 5.0 点増）、最高点は 80 点、最低点は 21 点であった。

表 1. お茶大インデックス 評価結果 （総合得点降順）

ID	「お茶大インデックス」得点							
	総合得点	1.全学的な支援体制		2.女性研究者支援		3.情報支援	4.意識啓発	
		組 織	勤務体制	子育て支援	研究教育支援	情報支援	次世代育成の取組	意識啓発の取組
最高点	100	18	12	12	22	12	8	16
017	80	16	10	6	16	10	6	16
055	80	17	7	8	13	12	7	16
006	77	15	7	5	17	9	8	16
047	77	12	7	8	16	10	8	16
035	75	13	10	7	16	9	4	16
070	75	11	8	7	17	9	8	15
002	74	12	9	6	15	9	8	15
030	74	9	10	8	17	8	8	14
052	74	16	5	6	15	11	6	15
お茶の水女子大学	72	14	8	7	13	10	8	12
015	71	15	8	6	12	9	8	13
019	71	15	6	5	13	10	7	15
016	70	13	7	6	14	10	6	14
065	68	11	6	8	12	12	5	14
042	66	10	6	9	14	11	3	13
058	65	13	5	7	14	9	6	11
036	64	11	8	4	13	8	8	12
046	64	8	7	6	9	10	8	16
071	64	12	5	8	11	8	8	12
025	63	10	5	8	13	8	8	11
033	63	8	6	8	14	8	8	11
057	63	15	5	6	12	9	6	10
073	63	11	2	10	11	8	6	15
004	62	9	6	6	13	7	8	13
067	62	11	8	9	10	7	5	12
039	61	11	11	9	12	8	1	9
020	54	8	5	4	15	9	3	10
034	54	9	6	6	12	12	0	9
050	54	7	3	6	11	10	6	11
068	54	10	5	7	14	8	0	10
003	52	12	8	0	14	8	0	10
051	52	10	4	3	8	9	8	10
061	51	7	4	4	7	5	8	16
063	49	9	3	4	9	4	6	14
066	49	11	4	4	9	5	5	11
043	46	14	2	6	8	5	0	11
069	45	10	4	3	9	9	1	9
022	42	7	1	6	12	7	0	9
064	39	5	2	5	10	4	6	7
014	37	7	1	2	12	6	3	6
072	27	5	1	0	4	5	2	10
007	21	4	0	5	4	3	0	5

謝辞：本調査を実施するにあたり、全国の多くの教育研究機関の皆様にご協力を賜りました。
心より感謝の意を表します。